

統計茨城

昭和47年 2 月号

目 次

I 卷 頭 言.....	1	III 昭和45年国勢調査全数集計の結果に ついて.....	16
II 指 標		IV 地域農業の問題と農林統計.....	19
主要経済指標.....	2	V 統計ニュース.....	21
人 口.....	4		
金 融.....	6		
農 業.....	8		
鋳 工 業.....	9		
労 働.....	10		
物 価.....	12		
家 計.....	14		

利用上の注意

- 1 統計表の数値は原則として単位未満は四捨五入。
- 2 年度は4月から翌年の3月まで。
- 3 記号
 - 零または該当数字のないもの。
 - 0 該当数字が掲載単位未満のもの。
 - … 不詳のもの。
 - p 暫定数字。
 - r 訂正数字。
 - △ 減少または出超を示す。
 - x 秘密保持のため掲載をひかえたもの。

数 字 の 重 要 性

行方郡統計事務協議会長 小 沼 幸 蔵
麻 生 町 長

常日頃統計調査に従事しておられる方々に心からお礼申し上げます。

足を使い実際に調査した数字が、どんなにか現代の行政、企業あるいは外交にまで役立つているかを思う時、数字の有難さを、ひとしお感じるものです。

また、利用を考えない人にとっては、集めた数字が、どのような組合せによつて統計表ができていのかを考えないで、単なる数字のら列としか写らないであります。

時間と労力をかけた統計表を利用することこそ、私たち為政者に与えられた任務ではないでしょうか。

それにもまして、利用し、活用してこそ、統計調査をまとめたご労苦に報ゆる謝礼でもあります。

それゆえ、生きている統計表が大切に、また机上で作られた統計表では価値がないと思います。

時代は一秒一秒と進んでいます。われわれの生活も一秒ごとに新しく進展しています。

数字も、それに伴つて動いています。また新しい数字が必要になつてきます。

それに人の統計、土地の統計は、開発の基盤となります。人の住むところ、発展はつきまとつています。そのもととなる人が動いているのですから数字も当然動かされます。また土地が動けば発展は生長していきます。開発が進めば数字も変わります。それらに遅れてはならない数字が必要になつてきます。

ひとつの調査が終わつたからとして、一段落したのではありません。次の段階の調査に手をつけなければならなくなつていのが現況であります。

例えば、人の動きに伴い、所得の動きも当然変わつてきます。このたび、県の指導で実施した町民所得統計は、市町村独自の統計であると共に、われわれ為政者にとつても、住民福祉サイドからみても非常に大切な数字であると信じます。

住民の富は、自治体に、ただちに、はねかえる時代であるとともに、地方税に表われる影響も大きく、現産業形態の成長・存続・維持、他産業の導入、基盤整備、新都市計画または広域行政圏の施設等考え合わせると、主要財源の確保は住民所得向上の一方的重さにかかつていのです。この所得統計こそ町村発展のパロメーターといつても過言ではないと信じます。

ただこの年度の統計に終わることなく、次の年度、また次の年度と年を追つて調査していただくよう念願するものであります。

以上、新しい世代に沿つた今後の統計作成に、多大のご努力を願ひ、日頃のご精進に感謝の意を表わし筆をとめます。

主要経済指標

主 要 経 済

茨 城 県

年月	財政資金 対民間収 支尻	銀行勘定		銀行券 増 減	手形交換高		不渡手形		株式 取引高	県民所得	
		実 預 金	貸 出 金		枚 数	金 額	枚 数	金 額		純 生 産	分 配 所 得
昭和35年	百万円	百万円	百万円	百万円	千枚	百万円	枚	百万円	百万円	百万円	百万円
36	15,581	75,617	51,718	2,937	198	70,264	2,493	180	33,319	191,333	190,036
37	14,468	94,148	67,838	2,687	230	75,303	2,535	152	48,336	244,863	227,341
38	23,402	115,285	83,675	1,625	274	88,699	4,808	279	60,230	276,693	262,695
39	△25,800	141,041	102,665	△ 998	311	101,448	5,974	319	40,999	297,111	291,117
40	△32,758	165,627	112,699	△ 5,614	355	142,640	8,828	796	19,485	334,028	323,856
41	△37,458	185,609	8,595	△ 6,228	380	147,872	10,404	847	34,770	※393,652	※419,662
42	△42,214	217,545	123,688	△ 179	436	163,444	9,901	835	46,590	※447,505	※481,624
43	△54,001	266,236	146,606	40	484	197,977	8,318	873	40,313	※566,265	※584,122
44	△46,293	311,421	166,962	4,517	533	226,801	9,872	1,121	78,315	※688,471	※699,552
45	△43,975	434,641	239,067	31,081	560	274,201	9,740	1,111	66,850	※806,702	※820,911
46	△44,896	765,166	470,270	...	593	338,391	11,218	1,596	83,727
46. 3	△ 1,350	24,531	9,076	1,834	59	34,491	1,112	102	13,392
4	△11,381	△ 4,327	△ 4,464	524	50	33,784	737	91	16,933
5	△ 4,561	9,167	4,589	△2,830	51	32,611	823	93	10,861
6	7,049	7,256	6,838	7,853	56	36,430	883	110	15,195
7	2,386	6,576	9,221	△4,768	112	46,264	1,633	235	16,867
8	8,461	1,057	3,168	△3,120	108	43,815	1,848	242	15,158
9	△10,621	16,460	4,799	△514	107	44,946	1,648	218	7,123
10	△ 6,954	422	1,462	970	101	43,664	1,450	201	6,280
11	△14,389	20,805	3,366	1,680	119	47,465	1,998	267

注) ①賞金指数、雇用指数の昭和46年については昭和45年=100とした数値である。 ②※は年度数値

資料：日本銀行水戸事務所、県統計課 県職業安定課

全 国

年月	財政資金 対民間 収支尻	全国銀行主要勘定		全国銀行 貸出約定 平均金利	銀行券 発行高	手形交換高		不渡手形	
		実質預金	貸出金			枚 数	金 額	枚 数	金 額
昭和35年	億円	億円	億円	(%)	億円	千枚	億円	千枚	億円
36	※△ 51	78,990	81,826	8.17	12,341	203,728	669,673	2,172	1,852
37	※ 4,909	90,796	97,701	8.00	14,801	221,016	862,205	2,121	2,084
38	※△2,033	106,720	114,946	8.21	17,459	242,368	1,016,246	2,525	2,805
39	※△ 614	136,996	145,626	7.79	20,574	265,933	1,189,982	2,878	3,492
40	※△4,394	156,533	168,297	7.90	22,988	290,466	1,430,983	3,726	5,271
41	※△2,662	183,754	192,179	7.80	25,638	302,975	1,510,970	4,077	5,574
42	※ 2,220	213,186	220,460	7.48	29,135	327,352	1,646,702	3,830	5,540
43	※ 752	240,650	253,230	7.32	34,115	346,690	1,885,942	3,746	6,435
44	※△3,478	281,893	290,328	7.46	40,419	364,011	2,252,989	3,752	7,371
45	※△1,312	328,541	337,844	7.41	48,113	379,264	2,620,324	3,274	6,218
46	※1,447	380,094	394,793	7.66	55,560	394,166	3,189,805	3,407	7,796
46. 3	△3,065	392,048	411,751	7.663	49,748	36,600	342,184	362	819
4	△6,544	398,221	414,179	7.655	49,963	32,080	303,015	289	683
5	△4,039	411,923	422,003	7.640	48,473	32,762	287,228	298	711
6	△ 926	420,229	431,980	7.618	52,089	35,850	309,659	281	748
7	2,396	425,491	442,104	7.598	52,689	34,143	307,446	288	694
8	△11,070	436,988	448,552	7.573	51,483	32,452	321,175	265	619
9	△3,919	450,829	457,355	7.543	51,299	32,250	316,929	268	703
10	△1,977	448,918	463,130	7.251	51,561	30,582	290,090	199	491
11	△7,228	52,250

注) ※印は年度数値

資料：日本銀行統計局 通商産業省 総理府統計局

濟 指 標

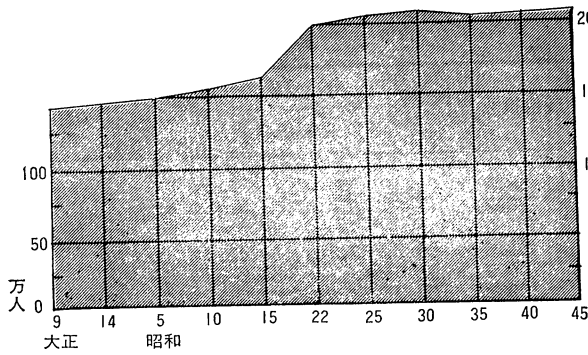
百貨店 売上高	鉱工業 生産指数 (総合)	建 築 着 工		賃金指数	雇用指数	消費者 物価指数 (水戸・総 合・平均)	勞 働 市 場			年 月
		工 事 費 額	床 面 積				新規求職	新規求人	失業保險被 保險者総数	
百万円		百万円	千㎡				人	人	人	
—	66.9	11,170	910	66.1	68.4	—	—	—	—	昭和35年
2,975	84.7	12,670	1,037	70.5	86.2	—	40,616	64,919	191,435	36
3,354	84.4	16,089	1,149	74.9	100.0	—	46,273	46,079	198,261	37
3,770	92.3	20,244	1,297	83.1	103.6	88.7	43,615	51,423	203,670	38
4,341	97.0	22,551	1,419	90.1	103.9	91.5	43,724	55,018	223,904	39
4,799	100.0	27,632	1,581	100.0	100.0	100.0	42,433	42,684	224,096	40
5,472	110.8	31,319	1,746	113.3	93.5	104.4	41,509	54,048	230,225	41
7,427	135.8	49,094	2,523	130.3	94.2	107.9	41,518	70,569	241,722	42
8,686	149.4	78,198	3,389	154.6	103.6	114.9	40,173	68,369	254,759	43
11,396	175.9	106,653	4,175	177.6	109.1	122.3	40,124	80,277	277,854	44
13,108	207.2	141.1	132.0	42,154	78,980	294,646	45
1,297	244.3	11,471	385	105.8	101.1	138.6	4,469	6,288	297,074	46. 3
1,112	222.6	12,849	407	109.8	101.9	142.0	3,848	5,435	302,238	4
1,071	202.1	12,798	352	105.5	101.7	142.1	3,462	5,270	306,412	5
996	228.6	17,488	391	118.5	101.8	141.1	3,657	4,372	309,024	6
1,153	243.9	15,494	466	119.5	102.5	141.9	3,830	5,405	309,697	7
897	230.2	15,737	358	111.0	102.0	142.1	4,070	5,785	308,408	8
943	...	13,312	420	121.0	100.2	149.0	5,152	7,079	306,768	9
1,183	...	15,341	428	149.5	3,693	5,956	307,005	10
1,177	136.0	11

国民総生産		百貨店 売上高	鉱工業 生産指数 (総合)	建 築 着 工		賃金指数 (名目・ 製造業)	雇用指数 (常用・ 製造業)	消費者 物価指数	失業保險 被保險者 総数	年 月
名 目	実 質			工 事 費 額	床 面 積					
億円	億円	億円		億円	千㎡				千人	
162,070	203,483	4,075	57.8	8,089	61,461	61.8	74.3	—	12,385	昭和35年
198,528	232,751	5,006	69.0	12,077	76,872	68.9	83.5	—	13,872	36
216,595	246,095	5,818	74.8	13,822	76,645	75.4	89.5	—	15,264	37
255,759	277,636	6,788	83.3	16,259	86,835	83.2	93.1	90.3	16,237	38
295,305	306,436	7,701	96.4	22,602	102,663	92.0	97.8	93.8	17,349	39
326,504	322,945	8,603	100.0	22,558	102,300	100.0	100.0	100.0	18,035	40
381,179	359,901	9,563	113.2	24,642	109,737	111.6	100.6	105.1	18,614	41
448,015	407,007	11,047	135.2	33,282	137,398	126.3	103.9	109.3	19,337	42
527,882	462,935	12,839	159.2	42,889	160,470	145.1	108.2	115.1	20,064	43
624,333	521,404	15,142	185.9	53,401	182,748	168.9	112.0	121.1	20,765	44
727,177	p571,944	18,242	215.9	66,697	205,034	198.7	115.6	130.4	21,173	45
176,940	...	1,823	239.8	5,004	14,062	161.5	114.7	135.6	20,956	46. 3
180,905	...	1,574	222.8	5,388	15,429	165.6	117.8	137.8	21,290	4
	...	1,485	210.0	5,134	14,649	171.1	117.1	137.6	21,594	5
188,454	...	1,520	229.7	5,964	16,625	281.3	116.8	137.5	21,793	6
	...	2,192	r230.7	6,690	18,690	346.8	p116.3	138.2	...	7
...	...	1,459	217.8	6,403	17,637	204.5	p115.5	138.6	...	8
	...	1,470	236.7	6,643	17,654	181.6	p114.9	143.9	...	9
...	...	1,838	...	6,708	17,688	180.6	p114.3	141.9	...	10
...	11

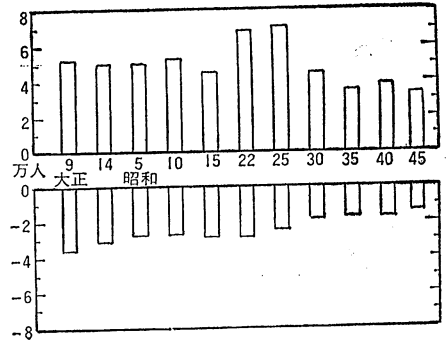
人 口

1 人 口

人口の推移



出生と死亡の推移



1-1 人口、世帯および人口移動

年 月 日	世 帯 数	人 口			人 口 移 動				
		総 数	男	女	増減数	自 然 動 態		社 会 動 態	
						出 生	死 亡	転 入	転 出
大正 9. 10. 1.	世帯 269,860	人 1,350,400	662,128	688,272		52,291	35,960	—	
14	276,120	1,409,092	693,837	715,255	△38,225	50,937	31,034	(-)58,128	
昭和 5	279,895	1,487,097	734,059	753,038	△31,227	50,445	27,308	(-)54,564	
10	286,471	1,548,991	766,423	782,568	△22,614	53,532	27,274	(-) 2,447	
15	287,677	1,620,000	801,914	818,086	1,393	45,148	29,101	(-) 9,853	
22	376,758	2,013,735	974,289	1,039,446	72,902	69,164	28,475	(-)32,213	
25	375,861	2,039,418	933,694	1,045,724	△ 8,034	60,325	24,784	(-)56,184	
30	382,315	2,064,037	1,006,093	1,057,944	△ 2,440	44,592	18,732	19,545	
35	409,465	2,047,024	1,000,184	1,046,840	291	35,664	17,709	17,704	
40	447,871	2,056,154	1,007,852	1,048,302	7,761	34,447	16,533	(-)10,153	
45. 11. 1	509,941	2,148,000	1,056,880	1,091,120	4,615	3,073	1,250	10,628	7,836
46. 11. 1	526,387	2,183,181	1,076,517	1,106,664	2,722	3,378	1,334	8,996	8,657

資料：県統計課 注) 人口移動のうち①大正9年～昭和40年については各年の年間数値を示す。
 ②昭和45年11月、46年11月の人口移動については45年10月、46年10月の月間数値を示す。

1-2 市町村別人口

市 町 村	昭和35年 10月	40年10月	45年11月	46年11月	市 町 村	昭和35年 10月	40年10月	45年11月	46年11月
総 数	2,047,024	2,056,154	2,148,000	2,183,181	竜ヶ崎市	33,581	34,917	37,317	37,658
市 部	881,682	932,336	1,030,991	1,048,592	那珂湊市	34,522	33,620	32,849	32,794
郡 部	1,165,342	1,123,818	1,117,009	1,134,589	下妻市	30,011	28,260	27,723	27,737
水戸市	139,389	154,983	174,210	190,034	水海道市	37,577	36,584	36,669	36,905
日立市	161,226	179,703	193,548	196,955	常陸太田市	38,541	36,974	35,483	35,380
土浦市	71,474	78,971	90,152	92,530	勝田市	43,286	52,625	66,946	70,502
古河市	42,474	50,202	54,160	54,678	高萩市	32,816	32,497	29,574	29,552
石岡市	34,758	36,789	39,582	40,236	北茨城市	60,507	55,334	48,281	46,542
下館市	51,257	51,717	53,882	54,547	笠間市	32,143	31,082	30,518	30,652
結城市	38,060	38,078	39,593	40,174	取手市	22,582	26,179	40,504	42,696

人 口

市 町 村	昭和35年 10月	40年10月	45年11月	46年11月	市 町 村	昭和35年 10月	40年10月	45年11月	46年11月
東茨城郡	134,192	128,687	127,976	128,019	稲敷郡	112,565	110,082	112,121	114,163
常澄村	9,850	9,393	9,085	9,090	江戸崎町	13,017	12,266	12,104	12,105
茨城町	30,845	29,439	28,989	29,207	美浦村	9,178	8,411	8,067	8,088
小川町	15,762	15,447	16,688	16,699	阿見町	22,326	23,390	24,949	25,702
美野里町	14,680	14,381	14,870	14,960	牛久町	16,131	17,203	19,453	20,825
内原町	12,921	12,695	12,941	12,894	荃崎村	6,338	6,253	6,464	6,590
常北町	11,832	11,154	10,769	10,794	新利根村	9,489	8,943	8,629	8,578
桂村	8,785	7,938	7,215	7,055	河内村	13,065	12,158	11,724	11,658
御前山村	7,227	6,425	5,746	5,614	桜川村	8,900	8,178	7,871	7,848
大洗町	22,290	21,815	21,673	21,706	東村	14,121	13,280	12,860	12,769
西茨城郡	59,662	58,685	59,429	59,565	新治郡	83,382	79,312	80,502	81,029
友部町	19,007	19,714	20,469	20,635	出島村	18,260	16,861	16,587	16,657
岩間町	13,656	13,719	14,126	14,194	玉里村	5,233	5,080	5,460	5,473
七会村	4,029	3,469	3,168	3,085	八郷町	30,670	28,741	27,416	27,276
岩瀬町	22,970	21,783	21,666	21,651	千代田村	11,620	11,451	13,744	14,201
那珂郡	105,533	103,571	104,143	105,266	新治村	8,400	8,240	8,345	8,420
東海村	13,978	16,565	19,024	20,421	桜村	9,199	8,939	8,950	9,002
那珂町	30,556	30,006	31,300	31,441	筑波郡	89,642	84,937	83,811	85,677
瓜連町	6,988	6,832	7,053	7,089	谷田部町	20,570	20,093	20,131	20,344
大宮町	24,594	23,635	23,343	23,263	伊奈村	12,010	11,241	11,183	12,688
山方町	13,016	11,805	10,550	10,378	谷和原村	10,746	10,062	9,911	9,946
美和村	8,364	7,515	6,576	6,433	豊里町	11,165	10,497	10,422	10,431
緒川村	8,037	7,213	6,297	6,241	筑波町	23,817	22,091	21,297	21,367
久慈郡	74,230	67,875	60,609	59,434	大穂町	11,334	10,953	10,867	10,901
金砂郷村	14,748	13,554	12,224	12,044	真壁郡	76,660	73,394	72,003	72,088
水府村	11,636	10,580	9,314	9,078	関城町	14,979	14,368	14,239	14,304
里美村	7,668	6,980	6,114	6,009	明野町	17,513	16,682	16,103	16,096
大子町	40,178	36,761	32,957	32,303	真壁町	21,959	20,809	20,320	20,278
多賀郡	11,006	10,346	9,629	9,685	大和村	8,064	7,522	7,218	7,190
十王町	11,006	10,346	9,629	9,685	協和町	14,145	14,016	14,123	14,220
鹿島郡	118,457	113,010	130,275	138,407	結城郡	52,189	49,080	48,211	48,357
旭村	11,747	10,759	10,157	10,100	八千代村	24,438	22,687	21,932	21,919
鉾田町	28,657	26,939	26,166	26,235	千代川村	8,447	7,912	7,790	7,784
大洋村	10,212	9,331	8,823	8,861	石下町	19,304	18,481	18,489	18,654
大野村	10,679	9,779	9,526	9,819	猿島郡	119,892	117,272	122,772	126,235
鹿島町	16,132	16,305	25,855	29,312	総和町	20,703	21,023	25,170	26,857
神栖町	16,326	15,820	22,379	24,859	五霞村	9,157	8,668	8,389	8,369
波崎町	24,704	24,077	27,369	29,221	三和町	19,269	18,380	18,511	18,738
行方郡	72,016	68,169	68,584	69,004	猿島町	14,810	14,053	13,624	13,636
麻生町	20,182	18,852	18,065	18,019	岩井町	33,366	33,459	35,265	36,523
牛堀町	6,796	6,466	6,583	6,725	境町	22,587	21,689	21,813	22,112
潮来町	17,671	17,111	19,409	20,037	北相馬郡	33,334	33,219	36,944	37,660
北浦村	12,401	11,611	10,954	10,715	守谷町	11,449	11,475	12,328	12,624
玉造町	14,966	14,129	13,573	13,508	藤代町	12,606	13,002	16,369	16,827
					利根町	9,279	8,742	8,247	8,209

注) 各年とも国勢調査結果。ただし、46年については推計人口

資料：県統計課

金融

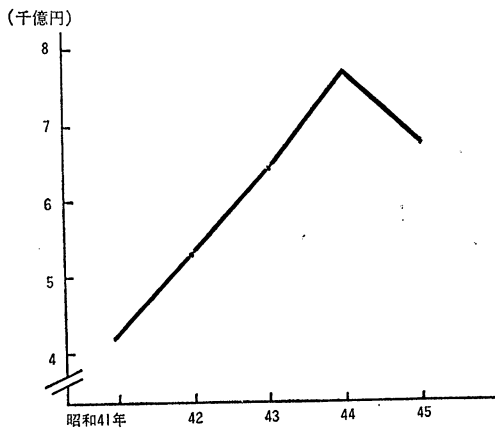
2 金融

2-1 金融機関預金

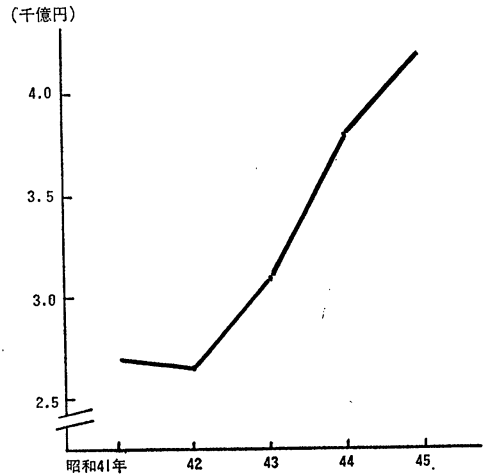
年 月	総 額				銀 行		相 互 銀 行		信 用 金 庫	
	預 金	対前年 同月比	貸 出 金	対前年 同月比	預 金	貸 出 金	預 金	貸 出 金	預 金	貸 出 金
昭和41年12月末	41,967	—	27,277	—	21,490	12,289	3,340	2,431	2,952	2,161
42	52,846	124.2	26,731	124.1	26,386	14,582	4,077	2,931	3,727	2,812
43	63,887	—	31,407	—	30,816	16,607	5,016	3,609	4,407	3,243
44	77,765	121.7	38,346	122.1	36,589	20,496	6,518	4,553	5,496	4,082
45	p68,365	p87.9	p42,989	p112.1	p43,539	25,691	8,168	5,952	6,843	5,170
46・1	65,232	...	46,039	...	44,017	25,920	8,802	6,471	6,977	5,706
2	70,357	...	48,777	...	45,603	26,070	9,026	6,623	7,707	6,324
3	92,263	...	50,541	...	46,774	28,925	10,231	7,040	7,924	6,675
4	96,700	...	51,840	...	49,014	29,035	11,772	7,564	8,308	6,970
5	102,547	...	51,498	...	52,863	31,782	12,437	7,775	8,475	7,109
6	91,251	...	48,398	...	46,488	27,166	8,693	6,492	7,177	5,388
7	92,786	...	49,231	...	47,157	28,098	8,657	6,612	7,307	5,465
8	92,954	...	49,271	...	46,598	28,131	8,752	6,726	7,453	5,558
9	96,447	...	50,355	...	48,147	28,603	9,281	7,044	7,644	5,671
10	108,757	...	56,098	...	47,884	28,451	9,279	7,209	7,730	5,765
11	112,171	...	56,528	...	50,791	29,344	9,423	7,224	7,871	5,963

資料；大蔵省関東財務局水戸財務部 注) 46年9月まで総額の中には農協分を含まない。

金融機関預金残高の推移



金融機関貸出金残高の推移



金 融

・ 貸 出 残 高

(単位：千万円)

信用組合		農 協		農林中金・商工中金		労 働 金 庫		郵便局	年 月
預 金	貸 出 金	預 金	貸 出 金	預 金	貸 出 金	預 金	貸 出 金	預 金	
1,991	1,749	4,232	1,525	1,805	936	286	178	5,982	昭和41年12月末
2,644	2,210	5,448	1,829	2,242	1,066	369	229	7,360	42
3,212	2,614	7,288	2,563	3,112	1,190	455	277	9,131	43
3,954	2,993	9,211	4,463	4,169	1,340	564	416	11,262	44
4,951	4,119	4,124	1,443	730	614	13,708	45
5,031	4,438	4,546	1,450	744	663	14,030	46・1
5,769	4,909	4,807	1,503	762	692	14,783	2
5,977	5,530	5,008	1,597	804	774	15,545	3
6,039	5,635	5,079	1,789	885	847	15,603	4
6,402	5,904	5,493	1,938	907	985	15,970	5
5,042	3,737	2,663	1,728	803	673	14,828	6
5,082	3,767	2,711	1,470	827	683	15,236	7
5,179	3,824	2,643	1,483	843	689	15,406	8
5,533	3,937	2,941	1,535	831	690	15,631	9
5,363	3,952	3,638	1,482	832	703	15,772	10
5,443	4,026	4,127	1,489	850	690	15,850	11

注) 農協には信連、漁信連、漁協を含む。

2-2 業種別貸出先数および貸出残高

(単位：百万円)

産 業	40年3月		43年3月		44年3月		45年3月		46年3月	
	貸 出 先 数	金 額	貸 出 先 数	金 額	貸 出 先 数	金 額	貸 出 先 数	金 額	貸 出 先 数	金 額
合 計	36,375	114,351	49,636	146,887	58,968	173,862	82,723	211,904	100,249	265,186
製 造 業	5,413	56,255	5,960	60,322	6,319	68,908	6,729	79,479	7,034	98,106
食 料 品	1,583	7,557	1,448	10,407	1,446	11,364	1,457	12,033	1,350	12,780
織 維 品	576	4,225	631	4,148	687	4,396	717	4,683	729	5,326
木 材・木 製 品	1,007	3,271	1,111	4,626	1,106	5,221	1,148	5,671	1,121	6,378
化 学 工 業	88	5,956	77	6,167	91	7,548	110	8,967	149	11,454
非 鉄 金 属	19	3,792	35	4,629	32	5,607	36	5,772	57	6,512
電 気 機 械 器 具	332	13,196	411	10,196	453	11,913	494	14,807	559	18,597
輸 送 用 機 械 器 具	53	4,327	64	5,727	75	6,100	91	6,530	100	7,694
農 業	9,527	2,213	12,641	3,557	14,885	4,745	17,596	5,906	18,441	6,800
林 業	40	113	44	131	63	166	65	133	53	171
漁 業・水 産 養 殖 業	176	1,475	215	1,753	219	1,987	267	1,787	348	1,628
鉱 業	142	3,622	122	3,047	144	3,495	156	3,866	137	4,564
建 設 業	927	3,765	1,714	5,561	1,993	7,038	2,557	8,966	3,196	11,107
卸 売 小 売 業	11,029	27,278	12,886	44,069	13,075	51,429	14,143	61,067	14,291	72,852
卸 売	2,110	15,228	2,169	22,906	2,295	25,615	2,479	29,514	2,616	35,559
小 売	8,919	12,050	10,717	21,163	10,780	25,814	11,664	31,553	11,675	37,293
金 融・保 險 業	47	2,143	51	1,118	57	1,419	48	896	44	891
不 動 産 業	105	4,538	210	6,859	262	9,152	318	16,401	385	26,874
運 輸 通 信 業	420	3,007	555	2,366	591	3,183	692	4,865	713	5,989
電 気・ガ ス・水 道 業	4	159	8	314	15	286	25	487	32	693
サ ー ビ ス 業	2,240	6,620	3,466	9,960	4,078	11,722	4,529	13,463	4,843	17,337
そ の 他	6,305	3,163	11,764	7,830	17,267	10,332	35,598	14,588	50,732	18,174

資料：日本銀行統計局 但し製造業の内訳は主要なもののみ。また、その他は地方公共団体、個人の合計。

農 業

3 農 業

3-1 農産物の平均販売価格

(単位：円)

年 月	うるち米 (玄米60kg)	小 麦 (玄麦3等 程度60kg)	ばれいしよ (男爵10kg)	だいこん (葉付10kg)	生 乳 (飲用10kg)	鶏 卵 (10kg)	肉 豚 (生体10kg)	乳用牛 (めす・生 後4月~6 月ホルス タイン純 種)
昭和40年12月	6,460	2,042	233	196	385	1,935	2,199	45,615
41	6,350	2,124	266	207	407	1,896	1,910	57,777
42	7,264	2,067	240	159	...	2,189	2,324	62,875
43	7,667	2,393	250	95	491	2,002	2,929	71,067
44	8,467	2,408	266	130	500	2,341	2,469	66,330
45	8,233	2,505	273	250	498	2,386	2,698	63,000
46. 1	8,233	498	1,755	2,124	63,400
2	8,233	471	2,017	2,503	63,400
3	8,267	485	1,866	2,671	63,400
4	8,167	492	1,621	2,739	64,500
5	8,117	497	1,703	2,800	64,500
6	7,800	...	450	...	499	1,665	2,970	65,500
7	7,867	3,857	250	...	503	1,603	2,552	66,000
8	7,867	3,857	533	1,702	2,734	69,667
9	8,467	3,857	533	2,188	3,031	69,667
10	8,433	367	533	1,924	2,627	69,667
11	8,433	260	533	1,959	2,655	69,667
12	8,433	280	533	2,277	2,604	69,667

資料：関東農政局茨城統計調査事務所 注) 昭和43年以降の価格は、それぞれの代表生産地における価格である。

3-2 農 業 用 品 の 購 入 価 格

(単位：円)

年 月	乳用牛 (成畜めす ホルスタ イン純種)	子 豚 (めす、生 後50~70 日中ヨー クシヤー)	硫 安 (N21%か ます40kg)	過りん酸 石 灰 (かます40 kg可溶性 りん酸17 %)	複合肥料 (N8%・P 8%・K5 %30kg)	配合飼料 (成鶏用20 kg粗たん 白15%以 上)	配合飼料 (乳牛用30 kg粗たん 白13%以 上)	パラチ オン剤 (46.6又は 46.7%乳 剤 単位 100cc)
昭和40年12月	152,701	5,446	800	561	807	797	1,028	191
41	171,375	3,904	801	572	710	802	1,024	188
42	216,625	5,927	774	582	612	797	1,015	173
43	246,250	8,600	748	582	666	778	1,078	190
44	201,250	7,750	728	576	656	794	1,055	200
45	193,750	6,200	723	638	621	945	746	200
46. 1	193,750	5,800	723	638	621	945	746	200
2	193,750	6,600	723	648	621	945	746	200
3	193,750	6,408	723	638	621	945	746	200
4	201,040	6,670	723	640	621	945	746	200
5	194,100	6,940	723	640	621	945	746	200
6	200,090	7,014	723	640	621	945	746	200
7	205,000	9,875	723	660	640	945	764	200
8	205,000	10,000	743	660	638	951	764	...
9	205,000	10,125	736	665	638	951	764	...
10	205,000	8,625	736	665	638	935	758	...
11	205,000	8,375	736	665	638	935	752	...
12	202,500	8,375	736	665	638	935	752	...

資料：関東農政局茨城統計調査事務所 注) 昭和43年以降の価格は農業地域代表市町村の価格である。
昭和43年以後子豚の価格はランドレース (F1ランドレース系) 60~90
日程度の価格である。

4 鉱工業

4-1 鉱工業生産指数

(昭和40年=100)

年月	産業総合	公益事業	鉱工業	製造工業				製造工業	鉄鋼業	非鉄金属工業	金属製品工業	機械工業 一般機械
				鉱業	石炭・ 亜炭	炭素 工業	金属工業					
品目数	123	2	121	8	1	5	2	113	5	7	5	15
ウエイト	100.0	0.39	99.61	5.48	56.59	28.34	15.07	94.52	1.72	7.31	3.27	8.48
昭和35年	67.0	92.6	66.8	87.2	91.0	87.6	54.9	64.9	62.6	52.5	—	51.0
36	84.7	89.7	84.6	89.8	92.6	90.9	66.0	84.2	80.4	73.6	—	79.4
37	84.5	90.0	84.4	90.3	90.2	98.6	68.6	83.9	80.4	56.6	—	74.3
38	92.3	77.9	91.6	92.2	92.6	99.8	76.7	91.5	83.8	72.8	—	86.3
39	97.0	95.3	97.1	99.0	95.6	100.4	111.2	92.5	106.8	101.3	—	101.0
40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—	100.0
41	110.8	266.9	110.2	101.2	107.0	104.2	73.7	110.7	117.1	107.7	—	105.7
42	135.8	617.7	133.9	98.9	99.5	100.6	93.8	135.9	133.9	130.5	—	132.3
43	149.4	427.8	147.5	92.1	86.7	96.7	103.6	150.8	138.2	134.3	—	149.4
44	175.9	585.4	174.3	97.0	89.1	98.9	123.3	178.8	174.7	154.8	—	205.8
45	194.1	522.1	192.8	96.9	87.9	94.0	136.1	198.4	251.5	149.6	—	283.5
46 1	204.7	1,475.5	199.7	95.1	91.3	89.2	120.1	205.8	237.1	138.1	299.8	245.6
2	229.6	2,477.1	220.8	96.0	95.4	92.6	104.9	228.0	269.9	135.4	272.5	331.4
3	244.3	2,530.7	235.3	112.6	112.9	102.1	131.4	242.4	260.9	145.6	240.0	325.5
4	222.6	2,368.1	214.2	98.5	91.7	97.8	125.3	220.9	264.3	171.6	302.3	275.4
5	202.1	2,610.0	192.7	89.5	79.3	95.0	117.6	198.7	230.9	150.0	323.4	249.8
6	228.6	2,431.6	220.0	102.4	96.2	102.0	126.8	226.8	292.3	153.9	323.5	299.5
7	243.9	3,901.9	229.6	104.4	102.6	97.5	123.9	236.9	292.7	147.9	262.3	275.2
8	230.2	4,518.0	213.4	81.5	61.8	90.2	138.8	221.0	256.2	140.6	188.8	231.3
9	241.0	4,110.4	225.9	74.4	58.6	90.4	103.4	234.7	287.2	118.8	239.8	337.6
10

年月	製 造 工 業											
	機 械 工 業			窯 業 土 石 製品工業	化 学 工 業	石油石炭 製品工業	皮 革 工 業	パルプ・ 紙・紙加 工品工業	繊維工業	木 材 木製品 工業	食 料 品 たばこ 工業	その他 の工業
	電 気 機 械	輸 送 機 械	精 密 機 械									
品目数	24	5	5	4	11	1	2	3	12	1	10	8
ウエイト	38.91	2.04	2.69	4.69	2.72	0.18	0.48	1.26	10.55	3.18	12.38	6.80
昭和35年	71.9	26.0	9.3	85.1	93.3	13.0	37.5	51.2	77.6	81.2	...	43.1
36	103.4	50.4	14.5	85.4	99.8	12.5	44.2	61.7	110.4	86.7	...	56.1
37	101.9	56.0	60.7	84.1	84.7	112.2	64.6	76.6	128.2	91.4	...	114.2
38	104.4	69.5	99.0	85.7	88.0	00.4	82.7	83.0	137.1	87.7	...	162.2
39	102.2	80.7	120.9	91.8	92.8	197.3	93.1	99.4	110.1	92.6	...	169.6
40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	00.0	100.0	100.0	100.0	100.0	...	100.0
41	110.3	115.2	108.0	102.1	116.5	93.5	85.8	127.5	98.3	108.5	...	115.9
42	137.5	147.4	106.0	111.0	121.6	74.7	64.7	144.3	106.3	105.9	...	136.3
43	176.8	193.6	78.2	124.8	135.2	91.1	71.9	160.8	139.6	110.4	...	121.3
44	188.2	231.1	78.0	126.5	198.1	81.8	74.3	188.7	181.7	124.6	191.2	166.9
45	194.4	265.0	91.7	134.4	308.2	81.5	77.0	207.2	195.3	170.4	208.3	195.9
46 1	176.4	233.0	78.1	105.9	925.0	103.3	71.8	205.8	215.4	164.0	224.0	170.5
2	202.1	260.7	84.3	150.7	962.6	67.1	64.7	181.2	227.8	164.0	227.4	195.3
3	215.8	337.6	107.6	161.2	1,054.4	65.0	79.5	224.3	184.9	177.7	265.9	204.4
4	195.7	227.5	96.6	127.1	1,061.6	65.8	191.7	204.5	145.2	155.8	207.7	201.6
5	150.4	187.0	100.8	108.3	955.3	62.8	104.6	192.5	193.9	158.5	200.1	244.1
6	172.0	253.3	98.7	120.0	1,382.8	65.4	89.2	205.8	156.5	155.8	209.7	261.6
7	194.7	258.9	80.8	131.2	1,353.5	67.1	88.2	184.7	186.0	164.0	218.0	314.7
8	202.6	212.3	67.0	141.9	1,262.6	75.9	87.6	168.1	170.1	147.6	180.0	269.2
9	211.7	293.6	48.8	122.6	1,221.5	77.0	92.1	201.0	161.8	153.1	179.3	307.2
10

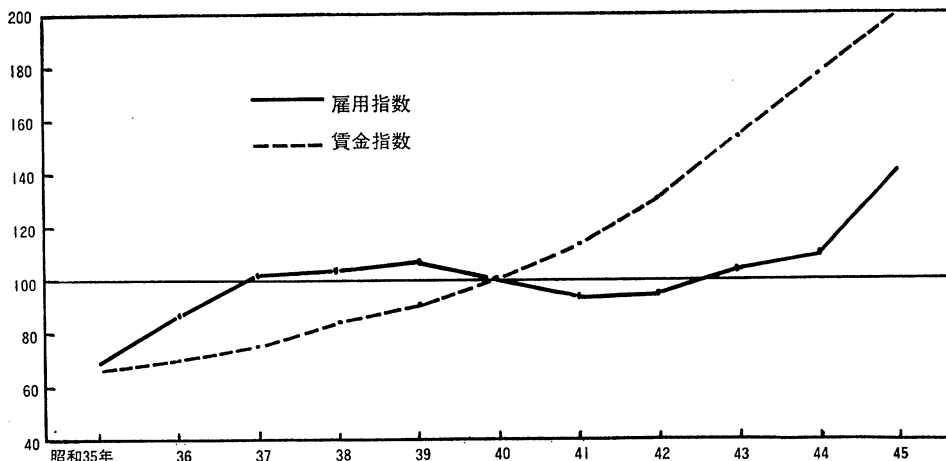
資料： 県統計課

労働

5 労働

産業別雇用・賃金指数の推移

(昭和40年=100)



5—2 産業別雇用

年 月	総 合		業 業		建設業		製造業			
	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金		
基準年次実数	155,584	—	32,542	—	12,196	37,797	6,047	30,625	103,093	29,999
昭和 35 年	68.4	—	66.1	—	93.0	60.4	88.9	53.7	60.4	68.2
36	86.2	17.8	70.5	4.4	92.3	66.8	114.7	62.9	82.0	74.6
37	100.6	13.4	74.9	4.4	93.3	71.5	114.6	66.5	101.6	77.3
38	103.6	3.0	83.1	8.2	92.2	83.4	117.9	77.0	102.9	85.4
39	105.9	2.3	90.1	7.0	96.8	91.3	112.9	91.5	105.7	90.2
40	100.0	△5.9	100.0	9.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	93.5	△6.5	113.3	13.3	105.8	107.3	84.3	98.9	93.9	116.2
42	94.2	0.7	130.3	17.0	97.2	119.4	71.7	123.1	98.7	136.1
43	103.6	9.4	154.7	24.4	87.2	139.0	78.2	145.0	112.9	164.0
44	109.1	5.5	177.6	22.9	81.8	167.7	79.1	164.9	120.7	190.0
45	141.1	32.0	207.2	29.6	40.9	206.8	158.9	224.8	147.5	215.2
46. 1	101.2	1.2	105.5	5.5	96.4	106.5	112.4	104.7	101.4	104.9
2	101.0	△ 0.2	107.8	2.3	94.8	107.8	113.0	105.7	101.1	108.2
3	101.1	0.1	105.8	△2.0	92.2	113.0	111.1	106.2	100.5	105.1
4	101.9	0.8	109.8	4.0	88.0	107.0	106.8	109.2	101.3	109.7
5	101.7	△ 0.2	105.5	△ 4.3	85.1	110.0	101.6	106.0	101.6	104.4
6	101.8	0.1	118.3	12.8	82.5	108.2	98.9	117.4	101.3	120.0
7	102.5	0.7	119.5	1.2	82.6	123.3	98.8	122.5	102.4	120.7
8	102.0	△0.5	111.0	△8.5	44.9	124.4	98.9	124.0	101.4	118.2
9	100.2	△1.8	121.0	10.0	45.2	117.4	100.9	122.3	100.6	122.0
10

資料：県統計課 注) ①規模30人以上の事業所 ②昭和46年については昭和45年平均=100とした数値である

勞 働

5-1 勞 働 時 間

(単位：1人1カ月当たり)

年 月	全産業	前月(年) 比 較	鉱 業	建設業	製造業	卸 売 小売業	金融・ 保険業	運輸・ 通信業	電気・ ガス・ 水道業	所定内労働時間	
										全産業	製造業
昭和35年	191.5	...	185.6	188.9	195.6	190.9	175.6	186.9	160.4	167.2	166.9
36	190.0	△ 1.5	184.9	182.1	192.7	189.7	180.4	190.2	159.2	166.1	164.5
37
38
39	193.5	...	199.8	181.2	191.3	192.6	180.1	197.8	178.5	174.9	172.8
40	186.4	△ 7.1	199.2	174.2	180.7	197.4	166.2	192.1	174.0	172.0	168.0
41	187.2	0.8	201.0	165.7	175.4	195.4	151.8	190.3	166.6	170.7	164.3
42	191.7	4.5	193.8	161.1	196.3	191.6	169.6	194.2	176.0	171.1	174.6
43	194.1	2.4	195.8	172.4	196.5	190.2	165.4	197.0	171.1	171.2	172.5
44	191.3	△ 2.8	195.6	158.8	192.8	198.6	163.4	192.7	168.6	167.8	168.3
45	189.4	△ 1.9	195.3	192.1	189.8	188.3	171.8	193.5	172.2	169.2	168.9
46. 1	173.2	△18.9	190.3	183.6	170.0	181.7	158.5	186.7	164.0	156.2	153.7
2	189.4	16.2	195.7	195.6	191.5	193.7	153.4	186.3	162.6	169.8	171.7
3	182.8	△ 6.6	204.6	194.3	181.4	179.4	176.3	187.4	183.1	165.0	163.9
4	191.4	8.6	193.6	195.8	190.3	194.5	175.2	201.7	186.5	174.4	175.0
5	169.1	△22.3	192.1	175.2	165.0	176.5	167.7	183.8	169.5	156.3	154.3
6	191.8	22.7	200.6	198.8	192.1	191.4	176.3	194.5	175.2	175.2	176.0
7	189.0	△2.8	196.8	203.7	191.0	159.7	175.7	194.6	188.3	172.8	175.9
8	179.3	△9.7	185.0	201.3	175.6	187.1	167.0	191.9	170.8	164.3	161.7
9	188.5	9.2	195.0	200.4	187.9	195.7	160.0	193.3	160.9	171.8	172.2
10

資料：県統計課 注) 規模30人以上の事業所

・ 賃 金 指 数

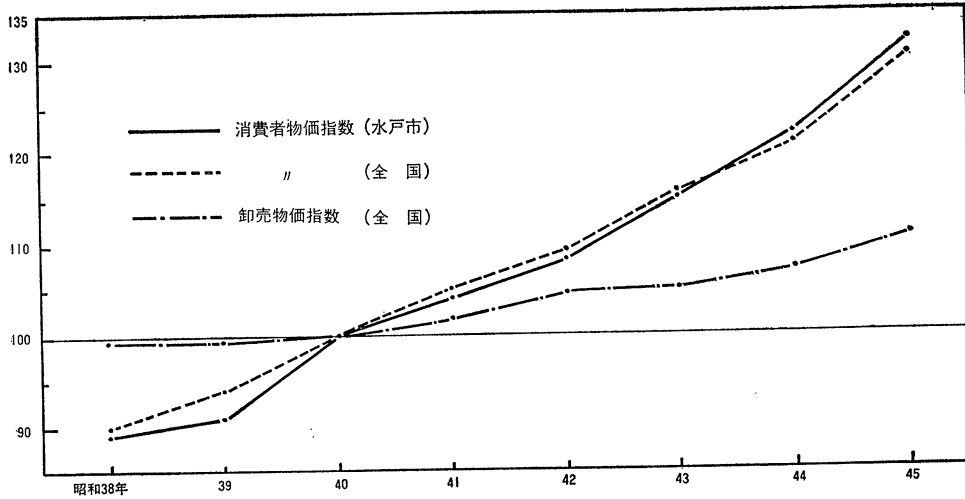
(昭和40年=100)

卸 売・小 売 業		金 融・保 險 業		運 輸・通 信 業		電 気・ガ ス・水 道 業		年 月
雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	
7,426	29,061	5,112	41,419	19,012	40,528	1,943	55,638	基準年次実数
96.2	53.9	74.8	57.1	75.7	60.3	92.9	62.4	昭和 35 年
109.7	57.0	84.0	61.1	89.5	66.7	88.7	67.6	36
111.5	60.7	86.9	72.4	99.8	77.4	82.8	72.1	37
110.0	59.9	92.9	79.4	117.3	83.5	76.4	72.1	38
108.7	87.9	103.4	89.5	116.6	90.3	83.5	88.9	39
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	40
87.4	99.5	90.7	105.6	82.1	111.6	115.5	115.2	41
92.6	106.9	89.1	111.1	76.0	127.9	122.3	130.2	42
102.7	128.6	87.9	142.4	76.4	145.7	122.7	140.5	43
122.0	153.0	85.5	163.0	75.1	168.5	120.8	160.8	44
212.5	196.5	187.7	194.7	129.6	198.6	133.0	179.9	45
98.5	107.9	100.9	101.4	98.4	109.6	97.9	100.8	46. 1
97.6	106.3	102.0	100.1	98.9	111.1	99.3	101.9	2
101.3	108.0	109.2	104.1	99.0	108.4	98.2	100.6	3
106.2	111.9	113.0	110.3	100.0	111.4	93.9	102.8	4
105.1	110.4	112.0	109.3	99.4	108.2	97.4	101.2	5
104.8	111.6	113.9	125.2	103.0	115.1	97.3	99.6	6
104.3	114.5	113.9	116.6	102.3	117.7	99.1	109.2	7
102.6	114.9	114.8	116.4	101.8	119.7	100.2	107.6	8
102.5	118.4	115.0	115.7	100.8	120.0	100.0	108.8	9
...	10

物 価

6 物 価

消費者物価指数と卸売物価指数の推移



6-2 消 費 者

1. 水 戸 市

(昭和40年=100)

年 月	総 合	対前月(年)比較	食 料	住 居	光 熱	被 服	雑 費
	362		146	45	8	62	101
	10,000		4,074	1,161	502	1,297	2,966
昭和38年	88.7	—	85.4	92.9	99.3	88.3	90.7
39	91.5	2.8	89.2	93.4	99.3	91.1	92.8
40	100.0	8.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	104.4	4.4	103.2	105.3	97.2	103.8	107.1
42	107.9	3.5	107.1	109.2	98.4	105.3	111.3
43	114.9	7.0	115.3	116.4	99.4	110.7	118.3
44	122.3	7.4	124.1	125.8	101.1	117.8	124.2
45	132.0	8.7	135.9	138.5	103.5	126.3	131.4
46.1	138.9	2.8	144.0	146.0	108.0	136.0	135.7
2	139.0	0.1	144.9	146.1	108.0	133.2	135.9
3	138.6	△0.4	143.4	146.7	108.1	134.7	135.8
4	142.0	3.4	144.4	147.1	108.6	137.5	144.2
5	142.1	0.1	143.4	151.2	108.8	136.1	145.0
6	141.1	△1.0	140.5	151.1	109.1	137.4	145.1
7	141.9	0.8	142.2	152.0	110.3	137.4	145.0
8	142.1	0.2	142.9	152.1	110.3	136.4	144.9
9	149.0	6.9	158.1	152.4	110.3	141.2	145.0
10	149.5	0.5	158.1	152.4	111.8	144.7	145.1
11	136.0	△13.5	139.4	141.4	107.1	134.7	134.8

資料：県統計課

6-1 費目別物価上昇寄与率（水戸市）

品 目	40年	41	42	43	44	46.9	46.10
総 合	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
食 料	51.8	28.9	45.7	47.4	48.2	90.0	—
主 食	13.2	8.6	7.1	12.9	9.1	—	—
そ 食 の 他 の 料	生鮮魚介	8.1	1.2	8.7	10.6	8.3	28.2
	肉 類	0.5	1.2	4.2	4.7	3.3	1.8
	野 菜	13.5	—	11.4	—	1.5	51.5
	果 物	2.0	8.7	—	0.6	2.5	8.1
住 居	9.0	13.6	12.7	11.9	14.7	0.5	—
家賃地代	5.7	7.7	3.4	2.5	1.8	0.5	—
設備修繕	0.4	4.0	8.3	8.2	10.0	—	—
光 熱	0.4	—	1.1	1.0	1.2	—	13.5
被 服	13.6	10.9	5.5	10.3	12.4	9.0	81.2
雑 費	25.2	46.6	35.0	29.4	23.5	0.5	5.3
交通通信	1.4	15.1	6.2	2.4	1.3	—	—
教 育	3.8	10.7	11.2	10.3	4.8	—	—
教養娯楽	14.2	19.3	15.4	8.4	11.9	—	—

資料：県統計課

注）昭和40年基準

物 価 指 数
2. 全 国

全 国 合 計	消費者物価指数 (昭40年=100)		卸 売 物価指数 (昭40年=100)	戦前基準指数 (昭9~11年平均=1.0)		年 月
	対前月(年)比較	人口5万人以上の都市		消費者物価指数 (東京区部)	卸売物価指数	
...	...	74.0	74.0	97.9	328.0	昭和35年
...	...	77.9	77.9	98.9	345.0	36
...	...	83.2	83.0	97.3	368.2	37
90.3	...	89.5	89.6	99.0	397.3	38
93.8	3.5	92.9	93.3	99.2	413.3	39
100.0	6.2	100.0	100.0	100.0	443.2	40
105.1	5.1	105.1	104.8	102.4	464.4	41
109.3	4.2	109.2	109.1	104.3	483.5	42
115.1	5.8	115.0	115.2	105.1	510.5	43
121.1	6.1	121.3	121.6	107.4	538.9	44
130.4	9.3	130.7	130.4	111.3	577.9	45
134.8	0.9	135.8	135.3	111.1	599.6	45. 12
136.2	0.1	136.6	136.6	110.9	605.4	46. 1
135.9	△ 0.3	136.3	136.1	110.7	603.2	2
135.6	△ 0.3	136.0	135.9	110.5	602.3	3
137.8	2.2	138.3	138.5	110.8	613.8	4
137.6	△ 0.3	133.0	138.1	110.8	612.0	5
137.5	△ 0.1	137.9	138.0	110.6	611.6	6
138.2	0.7	138.6	139.1	110.7	616.4	7
138.6	0.4	139.1	138.1	110.9	612.0	8
143.9	5.3	144.5	145.4	110.6	647.9	9
141.9	△2.0	142.5	142.4	110.0	631.1	10

資料：総理府統計局

7 家計

家計主要指数

1 全国

年 月	勤 勞 者 世 帯						全 世 帯		消費者	備考
	実 収 入 (円)	(1) 可処分 所得 (円)	消費支出 (円)	(2) 黒 字 (円)	(3) 平均消 費性向	(4) 実 質 実収入 指 数	(4) 実 質 消費支 出指数	消費支出	(5) エンゲル 係 数	
昭和38年	53,298	49,076	41,105	7,971	83.8	90.6	92.2	40,246	38.7	90.3
39	59,704	54,873	45,511	9,362	82.9	97.8	98.3	44,481	38.1	93.8
40	65,141	59,557	49,335	10,222	82.8	100.0	100.0	48,396	38.1	100.0
41	71,347	65,073	53,599	11,474	82.4	104.2	103.3	52,516	37.3	105.1
42	78,725	72,039	58,763	13,276	81.6	110.6	109.0	57,071	36.8	109.3
43	87,599	80,416	65,477	14,939	81.4	116.9	115.3	63,607	35.5	115.1
44	97,667	89,865	72,603	17,262	80.8	123.8	121.6	70,386	34.6	121.1
45	112,949	103,634	82,582	21,052	79.7	133.0	128.4	79,531	34.1	130.4
45. 12	266,450	245,392	134,312	111,080	54.7	303.4	201.9	122,985	31.3	134.8
46. 1	91,618	83,872	77,752	6,120	92.7	103.3	115.7	76,473	30.5	136.2
2	91,157	83,284	73,742	9,542	88.5	102.9	109.9	72,386	34.9	135.9
3	107,124	97,636	90,540	7,096	92.7	121.2	135.3	87,406	32.4	135.6
4	98,837	89,343	88,157	1,186	98.7	110.1	129.7	85,896	32.5	137.8
5	97,181	88,810	82,679	4,131	93.1	108.4	121.8	81,328	35.8	137.6
6	160,706	147,675	91,927	6,131	62.3	179.4	135.5	85,931	33.4	137.5
7	147,313	135,024	98,395	36,629	72.9	163.6	144.3	92,234	32.0	138.2
8	109,841	101,140	90,963	10,177	89.9	121.7	13.30	86,062	34.0	138.6
9
2 水 戸 市										
昭和38年	67,692	61,266	44,260	17,006	72.2	108.0	92.5	40,899	34.2	88.7
39	64,909	59,002	48,315	10,687	81.8	100.4	97.9	45,445	35.9	91.5
40	70,600	63,966	53,892	10,074	84.2	100.0	100.0	49,643	35.5	100.0
41	79,293	71,153	57,745	13,408	81.1	107.5	102.5	52,952	35.5	104.4
42	86,917	78,824	62,943	15,881	79.8	113.7	107.8	59,567	34.2	107.9
43	91,826	84,035	68,285	15,750	81.3	113.2	110.3	64,906	33.1	114.9
44	98,937	88,721	73,957	14,764	83.4	114.6	112.2	71,823	31.8	122.3
45. 12	290,572	263,447	132,698	130,749	50.4	302.4	180.9	27,406	27.5	136.1
46. 1	109,813	99,938	76,337	23,601	76.4	111.9	101.9	174,135	30.6	138.9
2	97,951	88,411	80,648	7,763	91.2	99.7	107.6	76,604	30.8	139.0
3	116,456	105,312	101,585	3,727	96.5	119.0	136.0	94,281	27.9	138.6
4	104,552	89,523	88,735	788	99.1	104.2	115.9	86,917	29.8	142.0
5	105,321	96,152	85,919	10,233	89.4	105.1	112.2	84,027	33.2	142.1
6	202,826	184,858	97,732	87,127	52.9	203.6	128.5	86,602	30.3	141.1
7	146,487	132,515	98,593	33,922	74.4	146.2	128.9	98,593	26.2	141.9
8	117,325	107,056	92,669	14,386	86.6	116.9	121.0	86,576	30.9	142.1
9

資料：総理府統計局 注) (1) 実収入－非消費支出 (2) 可処分所得－消費支出
 (3) 消費支出÷可処分所得 (4) 当該項目(40年=100)÷消費者物価指数
 (5) 食料費÷消費支出

1ヵ月1世帯当たりの収入と支出（勤労者世帯）

水 戸 市

収 入

年 月	集 計 世帯数	世 帯 人員数	世帯主 の年齢	収入(支出)	実 収 入	勤め先収入	事業・内 職 収 入	他 の 実収入	実収入以 外の収入	前月から の繰入金
				総 額						
昭和38年	61	4.24	42.6	93,967	67,692	55,464	1,607	10,621	10,101	16,174
39	57	4.26	42.5	96,413	64,909	59,058	1,069	4,782	15,521	15,983
40	57	3.99	42.2	108,204	70,600	64,756	1,921	3,923	19,483	18,121
41	54	3.99	41.7	115,607	79,293	74,295	1,112	3,886	14,704	21,610
42	54	3.88	42.0	125,294	86,917	80,407	1,804	4,646	18,087	20,289
43	58	4.05	41.5	133,352	91,826	87,176	1,284	3,366	16,143	25,382
44	67	3.89	41.8	149,178	98,937	88,203	2,272	8,462	22,877	27,365
45.12	68	3.87	43.4	353,128	290,572	273,784	3,208	13,581	24,864	37,692
46.1	61	3.99	44.1	168,814	109,813	98,485	636	10,692	16,728	42,273
2	68	3.96	44.1	166,388	97,951	93,210	1,489	3,252	25,273	43,165
3	68	3.93	43.7	193,092	116,456	105,949	1,786	8,720	36,215	40,421
4	67	3.90	42.3	167,789	104,552	95,316	1,755	7,481	28,167	35,070
5	67	3.90	42.2	154,575	105,301	92,660	4,842	7,799	14,749	34,525
6	65	3.89	43.3	263,639	202,826	193,297	3,728	5,801	29,246	31,568
7	63	3.78	44.7	213,863	146,487	136,370	7,111	3,005	26,466	40,911
8	66	3.82	44.3	179,375	117,325	99,734	2,369	15,222	24,460	37,591
9

支 出

年 月	実支出	消 費 支 出						非消費 支 出	実支出 以外の 支 出	繰越金	現 物 総 額	備考
		計	食料費	住居費	光熱費	被服費	雑 費					
昭和38年	50,686	44,260	14,488	5,172	1,928	5,428	17,244	6,426	26,039	17,242	3,418	
39	54,222	48,315	15,487	6,158	2,147	5,936	18,587	5,907	25,086	17,105	3,710	
40	60,526	57,892	17,182	6,698	2,414	6,725	20,873	6,634	28,330	19,348	4,269	
41	65,885	57,745	18,308	5,629	2,650	6,677	24,481	8,140	28,492	21,230	3,879	
42	71,036	62,943	16,637	6,411	2,799	7,150	26,947	8,092	32,615	21,643	4,277	
43	76,668	68,285	21,503	7,712	2,642	7,624	28,804	8,383	31,295	25,389	4,906	
44	81,659	73,957	21,938	9,389	2,775	8,023	31,852	7,702	37,692	29,826	4,648	
45.12	159,823	132,698	34,877	20,380	5,131	19,578	52,732	27,125	153,955	39,350	39,350	
46.1	86,213	76,337	22,540	5,122	4,005	7,147	37,524	9,875	36,706	45,895	7,537	
2	90,188	80,648	23,817	4,179	4,327	9,522	38,802	9,540	37,113	39,087	5,453	
3	112,719	101,585	25,519	7,864	4,557	12,227	51,419	11,134	42,099	38,273	6,058	
4	103,764	88,735	25,479	9,232	3,101	10,886	40,036	15,029	27,051	36,974	6,551	
5	95,088	85,919	27,606	4,210	2,680	8,596	42,827	9,169	29,047	30,441	6,231	
6	115,699	97,732	26,624	7,748	2,545	10,411	50,404	17,967	106,967	40,973	6,765	
7	112,568	98,593	25,794	11,883	2,468	9,402	49,046	13,972	60,857	40,441	11,752	
8	102,939	92,669	26,462	11,120	2,444	7,104	45,540	10,269	40,595	35,842	5,678	
9	

注) 収入の世帯数人員数, 年齢, は支出にも該当する。

昭和45年国勢調査 全数集計の結果について (その2)

県統計課人口学事統計係

前回掲載項目

- 1 本県人口の推移
- 2 男女別人口
- 3 市町村の男女別人口
- 4 労働力人口

5 就業者数

5年間に97,254人、9.5%増加した

昭和45年国勢調査における15才以上の就業者は総数1,115,752人で、うち男651,365人、女は464,387人である。

昭和40年の就業者は総数1,018,498人であつたから、この5年間に97,254人(男61,973人、女35,281人)増加

表1 男女別就業者数の推移

年	総数	男	女	前回調査との比較	
				増加数	増加率
昭和25年	958,282	528,843	429,439	—	—
30	967,292	538,203	429,089	9,010	0.9
35	1,018,575	565,455	452,120	50,283	5.2
40	1,019,498	589,392	429,106	923	0.1
45	1,115,752	651,365	464,387	97,254	9.5

し、とくに男子就業者の増加がめだつている。就業者を県内4地域別に分けてみると県北がもつとも

表2 地域、男女別就業者数

地域	昭和45年			昭和40年			昭和40~45年の増加	
	総数	男	女	総数	男	女	増加数	増加率
総数	1,115,752	651,365	464,387	1,018,498	589,392	429,106	97,254	9.5
県北	488,435	291,581	196,854	450,703	272,164	178,539	37,732	8.4
行	105,377	61,033	44,344	90,260	48,624	41,636	15,117	16.7
南	278,192	160,553	117,639	253,581	142,958	110,623	24,611	9.7
西	243,748	138,198	105,550	223,954	125,646	98,308	19,794	8.8

多く488,435人で総数の43.8%を占め、以下、県南24.9%、県西21.9%、鹿行9.4%の順となつている。

昭和40年の就業者数とくらべると、地域開発等にとまない各地域とも増加しており、増加数では、県北、県南、県西、鹿行と就業者の分布に比例して増加しているが、増加の割合からみると、鹿行がもつとも高く16.7%、ついで県南9.7%、県西8.8%、県北8.4%となり、増加数では県北がもつとも多くなつているが、増加率では鹿行

がもつとも高くなつている。

6 産業別就業者数

第1次産業就業者はいちじるしく減少した

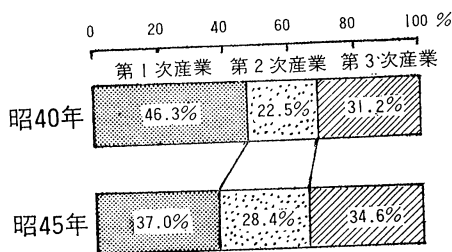
就業者1,115,752人を産業3部門別にみると、第1次産業は412,591人、第2次産業は317,325人、第3次産業は385,801人となつており、就業者総数に占める割合は、それぞれ37.0%、28.4%、34.6%である。

表3

産業(3部門)別就業者数

年	実数					割合				
	総数	第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能	総数	第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能
昭和40年	1,018,498	471,431	229,015	317,173	879	100.0	46.3	22.5	31.2	0.0
45	1,115,752	412,591	317,325	385,801	35	100.0	37.0	28.4	34.6	0.0
前回との比較 (△は減)	97,254	△58,840	88,310	68,628	△844	—	△9.3	5.9	3.4	0

産業(3部門)別就業者の割合



前回、昭和40年における産業別就業者の割合は、第1

次産業46.3%、第2次産業22.5%、第3次産業31.2%であつたから、前回にくらべ製造業、サービス業などの第2次、第3次産業は増加し、農業などの第1次産業はいちじるしく減少をみせた。

なお、産業をさらに大分類に分けてみると、農業就業者は昭和40年より56,486人減少して404,665人、林業就業者は527人減の1,496人、漁業水産養殖業就業者は1,827人減の6,430人となり、第1次産業はいちじるしく減少した。また、鉱業就業者も炭鉱の閉山にとまない、4,563人と大幅に減少して6,545人となつた。

反面、製造業をはじめサービス業などの第2次、第3次産業では昭和40年よりも就業者が増加し、とくに建設、製造、金融・保険・不動産、電気・ガス・水道およびサービス業の増加は顕著である。

表 4

産業(大分類)別就業者数

産 業 (大分類)	昭 和 4 5 年			昭 和 4 0 年			前 回 と の 比 較 (△は減)	
	総 数	男	女	総 数	男	女	増 減 数	増 減 率
総 数	1,115,752	651,365	464,387	1,018,498	589,392	429,106	97,254	9.5
第 1 次 産 業	412,591	192,977	219,614	471,431	226,047	245,384	△58,840	△12.5
農 業, 狩 猟	404,665	186,137	218,528	461,151	217,034	244,117	△56,486	△12.2
漁 業, 水産養殖業	1,496	1,255	241	2,023	1,591	432	△ 527	△26.1
第 2 次 産 業	6,430	5,585	845	8,257	7,422	835	△ 1,827	△22.1
鉱 産 業	317,325	225,611	91,714	229,015	170,771	58,244	88,310	38.6
建 設 業	6,545	5,764	781	11,108	9,917	1,191	△ 4,563	△41.1
製 造 業	63,329	58,230	5,099	45,345	41,539	3,806	17,984	40.0
第 3 次 産 業	247,451	161,617	85,834	172,562	119,315	53,247	74,889	43.4
卸 売 業, 小 売 業	385,801	232,751	153,050	317,173	192,234	124,939	68,628	21.6
金 融, 保 険, 不 動 産 業	158,895	85,092	73,803	131,344	70,404	60,940	27,551	21.0
運 輸 ・ 通 信 業	16,214	9,583	6,631	12,242	7,543	4,699	3,972	32.4
電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業	49,174	42,396	6,778	40,569	33,958	6,611	8,605	21.2
サ ー ビ ス 業	4,272	3,774	498	3,135	2,883	252	1,137	36.3
分 類 不 能 の 産 業	123,975	64,300	59,675	100,076	52,680	47,396	23,899	23.9
	33,271	27,606	5,665	29,807	24,766	5,041	3,464	11.6
	35	26	9	879	340	539	△ 844	△96.0

7 社会経済分類

15才以上のうち、男は技能者、女は農林業就業者がもつとも多い

今回の国勢調査では、人口の社会的、経済的な特性を

に表簡明わすために、はじめて社会経済分類を設け、全人口を22のグループに区分した。

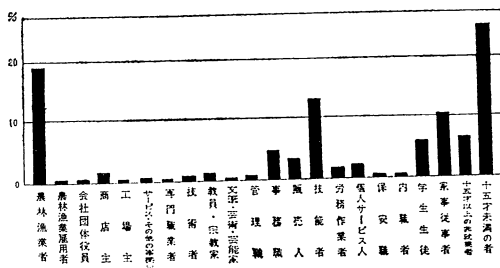
表5は、その結果を示したものであるが、15才以上人口のうち、もつとも多いのは農林漁業者の403,990人で、総人口の19.0%を占め、ついで技能者（技能工、生産工

表 5

社会経済分類男女別人口

社会経済分類	実 数			構 成 比		
	総 数	男	女	総 数	男	女
総 数	2,141,605	1,053,770	1,087,835	100.0	100.0	100.0
農 林 漁 業 者	403,990	185,910	218,080	19.0	17.6	20.0
農 林 漁 業 雇 用 者	6,025	5,215	810	0.3	0.5	0.1
農 林 漁 業 団 体 役 員	9,870	9,055	815	0.4	0.9	0.1
商 社 店 主	30,225	21,935	8,290	1.4	2.1	0.8
工 場 主	7,785	7,370	415	0.3	0.7	0.0
サ ー ビ ス ・ そ の 他 の 事 業 主	11,025	9,170	1,855	0.5	0.9	0.2
専 門 職 業 者	6,675	6,080	595	0.3	0.6	0.1
技 術 者	20,830	13,770	7,060	1.0	1.3	0.6
教 員, 宗 教 者	24,550	13,915	10,635	1.1	1.3	1.0
文 筆 家 ・ 芸 術 家 ・ 芸 能 家	2,520	1,790	730	0.1	0.2	0.1
管 理 職 員	11,760	11,640	120	0.5	1.1	0.0
事 務 員	108,050	56,870	51,180	5.0	5.4	4.7
販 売 職 員	75,380	34,935	40,445	3.5	3.3	3.7
技 術 職 員	283,860	216,650	67,210	13.3	20.6	6.2
勞 務 作 業 者	40,410	30,975	9,435	1.9	2.9	0.9
個 人 サ ー ビ ス 業 者	44,260	13,010	31,250	2.1	1.2	2.9
保 安 職 員	12,505	12,395	110	0.6	1.2	0.0
内 務 職 員	14,310	560	13,750	0.6	0.0	1.3
学 生 徒	133,185	67,465	65,720	6.2	6.4	6.0
家 事 従 事 者	219,395	2,505	216,890	10.3	0.2	19.9
15 才 以 上 の 非 就 業 者	141,735	61,870	79,865	6.6	5.9	7.3
15 才 未 満 の 者	533,240	270,670	262,570	25.0	25.7	24.1

社会経済分類別人口の割合



程作業者など)の283,860人、家事従事者の219,395人、15才以上の非就業者141,735人、学生生徒の133,185人などとなっている。

また、男女別に比較してみると、男では技能者が最も多く、ついで農林漁業者、学生生徒となり、女では農林漁業者を筆頭に、家事従事者、15才以上の非就業者、技能者の順となっている。

なお、男が大半を占めているのは工場主、専門職業者、管理職、保安職などであり、農林漁業者、販売人、個人サービス人、内職者、家事従事者および15才以上の非就業者では、男よりも女の割合が高くなっている。

全国の社会経済分類の構成とくらべてみると、男女とも農林漁業者の割合が全国平均（男8.5%、女9.9%）を大きく上まわっており、また、15才以上の非就業者および女子学生生徒の割合が高くなっている。

8 世帯

1～5人家族の世帯が急速に増加した

総数508,537世帯で、このうち普通世帯（住居と生計

を共にする人々の集まり）は500,576世帯、準世帯（間借りの単身者、寄宿舎・寮に居住する単身者の集まり）は7,961世帯である。

普通世帯を昭和40年とくらべると、60,315世帯、率にして13.7%と急速に増加し、1世帯あたり平均世帯人員は前回の4.55人から4.16人となった。

全国の平均世帯人員は、昭和40年4.05人、昭和45年は3.69人であるから、全国にくらべまだわずかに多いが、その差は0.5人から0.47人と縮まってきた。

表6 世帯人員別普通世帯数

年	総数	1人世帯	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人以上	1世帯あたり平均世帯人員
昭和40年	440,261	22,483	47,340	66,362	89,430	80,030	63,190	40,948	18,206	7,407	2,923	1,942	4.55
45	500,576	31,128	60,738	88,516	122,042	86,752	62,156	30,807	12,523	4,150	1,212	552	4.16
構成比	100.0	6.2	12.1	17.7	24.4	17.3	12.4	6.2	2.5	0.8	0.3	0.1	—

表7 世帯の家族類型別普通世帯数

年	総数	核家族世帯						その他の親族世帯	非親族世帯	単独世帯
		総数	夫婦のみの世帯	夫婦と子供からなる世帯	夫婦と子供からなる世帯	夫婦と子供からなる世帯	夫婦と子供からなる世帯			
昭和45年	500,576	294,547	43,716	222,345	4,618	23,868	173,716	1,185	31,128	
構成比	100.0	58.9	8.8	44.4	0.9	4.8	34.7	0.2	6.2	

普通世帯を世帯の家族類型別にみると、夫婦のみ、夫婦と子供、片親と子供からなるいわゆる核家族世帯は294,547世帯で、全世帯の58.9%を占めている。

この内訳は、夫婦のみの世帯8.8%、夫婦と子供の世帯44.4%、片親と子供の世帯5.7%となっており、前述の1～5人世帯の増加などからみても、核家族化が急速に進展していることがうかがわれる。

9 経済構成別普通世帯数

農林業の就業者世帯は、農林・非農林混合世帯も含め全世帯の36.3%を占める

普通世帯を経済構成別にみると、非農林就業者世帯がもつとも多く全世帯の60.4%で、以下、農林就業者世帯18.4%、農林・非農林混合世帯17.9%、非就業者世帯は

表8 経済構成世帯主の産業別普通世帯数

年	総数	農林就業者世帯		農林・非農林就業者混合世帯		非農林就業者世帯	非就業者世帯
		総数	うち漁業就業者のいる世帯	総数	うち漁業就業者のいる世帯		
昭和45年	500,576	91,963	2,800	89,412	1,932	57,302	32,110
構成比	100.0	18.4	0.6	17.9	0.4	11.5	6.4

3.3%である。

なお、農林業就業者世帯と、農林・非農林就業混合世帯とを合わせた、いわゆる専業、兼業の農林業就業者世帯は全世帯の36.3%であり、全国平均の18.4%にくらべて約2倍となっている。

非農林就業世帯の内訳をみると、雇用者世帯（世帯主が雇用者である世帯）は226,014世帯で45.1%、業主世帯（世帯主が業主である世帯）は76,398世帯で15.3%となっている。

10 住宅

持ち家の割合は全国平均を上回っている

普通世帯のうち、住宅に住む499,724世帯を、住宅の所有の関係別にみると、持ち家に住む世帯がもつとも多く369,582世帯（74.0%）、借家に住む世帯95,847世帯（19.1%）、給与住宅に住む世帯31,775世帯（6.4%）で、このほか、住宅に間借りしている世帯が2,520世帯（0.5%）となっている。

全国平均の割合（持ち家58.2%、借家33.7%、給与住宅6.9%、間借り1.2%）とくらべると、持ち家は15.8%高く、間借りは0.7%低くなっており、住宅事情は全国平均を上回り、次第に緩和されてきている。

表9 住居の種類、所有の関係別普通世帯数

住居の種類 所有の関係	世帯数	世帯人員	1世帯あたり人員	1世帯あたり室数	1人あたり量数
普通世帯	500,576	2,084,725	4.16	4.0	5.7
住宅総数	499,724	2,082,013	4.17	4.0	5.7
持ち家	369,582	1,674,245	4.53	4.5	6.1
公営借家	20,929	70,940	3.39	2.6	4.0
民営借家	74,918	221,169	2.95	2.3	4.2
給与住宅	31,775	107,589	3.39	2.9	4.9
間借り	2,520	8,070	3.20	1.8	3.4

また、1世帯あたりの居住室数は平均4.0室（全国平均3.9室）で、所有の関係別にみると持ち家4.5室（全国4.9室）、公営借家2.6室、民営借家2.3室（全国2.3室）給与住宅2.9室（全国2.8室）（全国3.1室）、間借りでは1.8室（全国1.9室）となり、1世帯あたりの居住室数は全国平均とくらべわずかに高い。

なお、1人あたりの量数は平均5.7量で、所有の関係では持ち家が6.1量と多く、もつとも少ないのは間借りの3.4量である。（全国平均6.1量）。

地域農業の問題と農林統計 (その1)

農林省統計調査部管理課課長補佐

小 山 智 士

はじめに

農林省は、昭和45年末に「農業生産の地域指標の試案」を公表した。つまり、わが国農業の主力生産物である米が恒常的な過剰状態にあり、その需給均衡を図ることが農政の緊急課題になつてきたこと、また、米以外の農産物においても、需要と生産が十分に対応していないものもあつて、農業は国際化、物価の高騰などから生産性の向上と国土資源の有効利用が強く要請されるに至り、地域に適合した生産の方向づけを行なうことが必要となつた。そこで、地域の農業生産を長期的な観点にたつて誘導するガイド・ポストとしてこの試案が作成されたのである。

この試案は、全国を14地域に分けて作成されたものであるが、都道府県はこの試案にそつて都道府県独自の方向づけを行なつてきている。47年1月現在、地域指標を作成済ないし作成中の県は1道27県、作成の意図のある県は6県、合計1道33県にのぼつている。

茨城県においては、昭和45年11月「茨城県農業振興の基本構想」を策定し、農業施策の方向と主要施策の推進についての方針を定めている。

それによると、農政の基本姿勢として、(1)国民食糧の確保、(2)自然保護、国土保全の確保、(3)国民生活圏としての農村の整備の三点があげられている。これは今までの農政、つまり一つの産業施策という観点にたつたものでなく、広く県民福祉の上になつた方向である。その意味では前述の地域指標にくらべ、より総合的見地となつたものであり、地域開発の新理念を確立しようとする「問いかけ」をもつたものとして注目されよう。

同構想による農業施策の方向としては、(1)集团的生産組織による経営規模の拡大、(2)生産流通体制の広域化、(3)社会生活環境の整備の三点をあげている。

農産物の国際化あるいは物価の上昇などを考えれば、当然生産性を向上する必要がある、そのためには規模拡大が必要となつてくることから、他産業との均衡のとれた所得を得るためには、昭和60年において1人当たり200万円と想定した試算によれば、水稻(直播+裏作飼料)→40ha、酪農→経産牛36頭、飼料畑5ha、採卵鶏→3万羽、果樹(クリ)30ha、養蚕→桑園15haなどを、3~8人で経営しなければならぬとしている。しかしながらこれを自立経営でもつて実現することはきわめて困難と判断して「集团的生産組織による規模拡大」を農業施策の1つの柱としている。

つぎに、主要施策としては、(1)農業者の育成、(2)土地利用の高度化、(3)地域農業生産の近代化、(4)流通の合理化、近代化、(5)試験研究の推進、(6)制度金融の充実強化、(7)農業協同組合の整備強化、(8)田園都市計画の推進の8項目が掲げられている。

これらの施策により、農業生産を昭和44年の総額1,952億円(第一位米687億円、第二位畜産521億円、第三位野菜315億円)から、昭和50年には、総額2,066億円(第一位畜産755億円、第二位米518億円、第三位野菜371億円)に引きあげようというビジョンを打出している。

【いずれも40年価格で生産調整を考慮しない数値】

茨城県農業の現状

1970年世界農林業センサス結果によれば、昭和45年の総農家数は193千戸で、40年対比95.8%となつており、このうち専業農家は38千戸で40年の約半数55%となつてきている。一方、第二種兼業農家は74千戸で40年対比

127.2%と増加している。農家人口は993千人で40年対比89.9%と減少している。また、耕地についてみると、田は118千haで40年対比109%と増加しているが、畑は111千haで40年対比88.4%と大幅に減少してきている。

農業粗生産額の構成変化をみると、第1表にみられるとおり、昭和35年当時は作物部門の合計が82.3%で、米42.2%、麦12.6%、野菜9.9%などとなつており、畜産合計は14.2%であつた。これが10年後の45年には、作物部門が70.7%と大きく低下し、この内訳をみると、米が32.3%、麦が4.5%となつて大きく後退したのに対し、野菜は20.3%と増加している。また畜産も大きく上昇して26.5%となつており、なかでも養豚は15.8%を占めている。

つまり、作物部門では、米、麦の低下にかつて、野菜類が大きく伸び、畜産部門の伸びも著しく、なかでも養豚の発展はめざましいものがある。

このような動向から、今後の茨城県農業の展望としては、豚あるいは施設園芸など、比較的土壌および気象制約をうけないもので、かつ年間をならして労働配分の可能なものが有利になるものと思われる。このような施設型の経営の今後の方向としては、流通過程の組織化と関連して生産過程の組織化がどうしても必要となつてこよう。

また、麦類、豆類、雑穀なども需給面から国内生産が不足しているものであり、土地利用型経営の対象となる普通畑作地帯を多く保有している茨城県としては、さきに掲げた集团的生産組織による作業規模の拡大を図り、生産性を向上させる方向が考えられる。そのさい、自立経営的な専業農家を中核として、生産組織化を広域的に進めるのも一つの方法であろう。

第1表 農業粗生産額の推移(茨城)

	35年		45年	
	粗生産額 百万円	構成比 %	粗生産額 百万円	構成比 %
総 額	727	100.0	209,192	100.0
作物部門計	598	(82.3)	147,954	(70.7)
米	308	42.2	67,365	32.2
麦	91	12.6	9,327	4.5
雑穀	30	4.1	5,493	2.6
豆類	31	4.2	5,114	2.4
いも	72	9.9	42,384	20.3
野菜	13	1.8	5,599	2.7
果	1	0.2	805	0.4
花	48	6.6	9,915	4.7
工芸作物	4	0.5	1,952	0.9
種 苗・苗	17	2.3	4,603	2.2
養畜部門計	103	(14.2)	55,462	(26.5)
役肉用牛	9	1.2	1,530	0.7
乳牛	13	1.8	8,413	4.0
養豚	44	6.1	32,969	15.8
養鶏	34	4.6	12,401	5.9
その他畜産物	3	0.5	149	0.1
加工農産物	9	1.2	1,173	0.6

資料 農林省統計調査部

変貌する市町村の性格

農林省では、昭和37年に農業生産活動が成立する場の環境的条件の経済的地理的性格を表現した経済地帯区分を行なつた。これは、地域の農業構造をその成立する場で

とらえるためであつた。つまり、農業生産の内部条件ばかりでなく、都市的活動との近接の度合、工業立地との関連、自然条件の制約と生計稼得の方法としての林業、漁業などとの結合関係など環境条件によつて大きく規定づけられ、とくに将来における農業構造の変化は、これら非農業部門の動向によつて影響されるものと考えられるからである。

この経済地帯区分は、別表1のような区分基準によつて都市近郊、平地農村、農山村、山村に4区分された。当時は旧町村単位に作成されていたため、設定当時の区分指標はそのまゝにして、昭和40年10月1日現在の新市町村単位に改訂して利用の便をはかつてきたが、その後経済の高度成長に伴う地域経済構造の著しい変化によつて実情にそぐわない面がでてきたため、設定当時の区分規準はそのままとして、昭和40年の数値を利用して区分改訂を行なつた。

別表1 経済地帯別基準指標

経済地帯名	基準指標	指標
都市近郊	第2次産業就業人口率	20%以上
		50% "
平地農村	専業農家率	30%以上
		50%以下
農山村	専業農家率	40%以上
		10%以上
山村	兼業農家率	50%以上
		80%以下
農山村	兼業農家率	40%以上
		10%以下
山村	兼業農家率	5%以上
		10%以上

その結果、全国では都市近郊が223市町村も増加しており、平地農村の市町村数が減少している。一方、逆に耕地率の低下、耕地の林地化などが影響して、農山村から山村に性格を変えた町村も53にのぼっている。茨城県の場合では、平地農村から都市近郊へ11市町村が変貌し、都市化の進展を物語っているが、一方、前述のような理由から、従来全くなかつた山村に新たに3町村がランクされたことは注目される。つまり、都市化の進展と過疎現象という両極現象が出てきていることがわかる。

このような新しい経済地帯別の変化をみたのが第2表である。

これによると、人口は当然のことではあるが、都市近郊で増加し、漸次山村にいくにしたがつて減少傾向が激しくなっている。農家数は各地帯ともに減少しているが、茨城の場合、全国の傾向と若干異なり、都市近郊の減少率が低い。これは、もともと農家数が少ないこともあるが、都市化の激しい地帯における最近の傾向でもある。農家のうち専業農家についてみると、各地帯ともに全国平均の傾向とは逆の傾向を示している。また、第二種兼業農家はいずれの地帯でも増加しているが、都市近郊での増加率が低い。つまり茨城の場合、都市近郊地帯では農家数全体の減少率も低く、専業農家の減少率も他の地帯に比べて低く、第二種兼業農家の増加率も低い。これは都市近郊の農家は、地価の高騰と比較的収益の高い農業生産が可能なためであろう。

農業粗生産額についてみても、全国平均では都市近郊地帯の増加率が他の地帯に比べて低いのにに対し、茨城では山村地帯について高く、平地農村よりも高くなつている。

つぎに、地域の農業生産の特徴をみる一つの指標として使われる特化係数{(特定市町村の特定作目の粗生産額/特定市町村の農業粗生産額)÷(全国の特定作目粗生産額/全国の農業粗生産額)}を市町村を単位として計算し、これらを総括的にながめてみると第3表のとおりとなる。

茨城県の場合、特化係数1以上(全国平均より高い)の

第2表 主要指標の経済地帯別動向

区分	都市近郊	平地農村	農山村	山村	計	
総人口	全国 45年	69,298千人	15,547	14,196	4,677	103,718
	全国 45/40年	111.4%	99.5	93.6	88.5	105.5
	茨城 45年	988千人	1,026	114	16	2,144
	茨城 45/40年	108.4%	102.2	92.5	86.7	104.3
総世帯数	全国 45年	19,467千戸	3,696	3,514	1,178	27,885
	全国 45/40年	121.6%	108.0	102.1	97.7	115.7
	茨城 45年	254千戸	225	26	3	508
	茨城 45/40年	118.3%	110.4	100.8	96.9	113.5
総農家数	全国 45年	1,487千戸	1,643	1,666	546	5,342
	全国 45/40年	92.7%	96.5	94.0	93.2	94.3
	茨城 45年	46千戸	130	15	2	193
	茨城 45/40年	97.4%	95.3	95.9	95.5	95.8
専業農家数	全国 45年	196千戸	317	264	54	831
	全国 45/40年	66.5%	68.0	68.5	75.3	68.2
	茨城 45年	8千戸	27	3	0.2	38
	茨城 45/40年	63.7%	52.9	56.8	48.3	55.0
第兼二種業	全国 45年	880千戸	682	819	328	2,709
	全国 45/40年	110.8%	119.8	115.8	111.3	114.5
	茨城 45年	22千戸	44	7	1	74
	茨城 45/40年	113.5%	135.6	124.9	136.0	127.2
農家人口	全国 45年	7,642千人	8,216	7,909	2,571	26,338
	全国 45/40年	87.1%	90.0	86.3	84.1	87.5
	茨城 45年	234千人	669	77	13	993
	茨城 45/40年	90.9%	89.9	88.0	86.1	89.9
田面積	全国 45年	795千ha	1,380	968	267	3,410
	全国 45/40年	96.6%	103.9	100.2	97.7	100.5
	茨城 45年	27千ha	84	6	1	118
	茨城 45/40年	111.2%	108.9	102.8	104.2	109.0
畑面積	全国 45年	413千ha	878	829	242	2,362
	全国 45/40年	81.0%	112.0	94.6	97.2	90.2
	茨城 45年	21千ha	82	7	1	111
	茨城 45/40年	82.6%	89.3	95.8	94.1	88.4
の面べ付積	全国 44年	1,513千ha	2,682	2,085	559	6,839
	全国 44/40年	85.1%	94.3	94.2	92.9	91.9
	茨城 44年	63千ha	223	19	3	308
	茨城 44/40年	92.3%	91.1	99.2	71.9	91.6
粗生産額	全国 44年	1,251億円	1,731	1,280	302	4,534
	全国 44/40年	144.7%	151.7	152.2	155.3	150.1
	茨城 44年	40億円	141	12	2	195
	茨城 44/40年	153.0%	144.4	153.0	177.7	146.8

資料 農林省統計調査部

市町村数は、米で20市町村、野菜39市町村、畜産53市町村、果樹6市町村となつており、畜産と野菜の市町村数割合は全国平均よりかなり高い。これらの傾向は、前述の「茨城県農業の現状」と照応するものである。

地域統計の必要性和その役割

基本法農政の発足以来、地方農政局の開設とともに地域農政が推進されてきたが、一方では全産業的視野にたつた国土の有効利用という立場から、新全国総合開発計画法の制定および新都市計画法、山村振興法、農業振興地域整備法、過疎地域対策緊急措置法等が相つて制定され、国、市町村段階での諸地域の策定、地域の指定が行なわれている。

さらに45年末に公表した「農業生産の地域指標の試案」に基づいて、都道府県、市町村では農業生産の方向づけを進めつつある。これらの作業を進めるためには、幅広い統計資料を用いて総合的に現状分析を行ない、その現状認識に立脚して将来の目標を描かなければならない。地域振興あるいは地域開発などは、通例国が企画立案し、都道府県が国と協議のうえ作成した基本方針、要綱および基本計画等に基づいて、市町村が具体的計画をたて、末端に計画をおろしていく仕組みとなつている。したがつて、都道府県あるいは市町村が計画を樹立する場合、それらの計画は国の計画と斉合性をもつと同時に地域計画としての独

第3表

作目別特化階層別市町村数

作目 地域	特化係数(42年)		0.0~0.5			0.5~1.0			1.0~1.3			1.3~1.8			1.8~		
	特化係数の増減 (42/35年)		5% 以上 減少	5% 内 増減	5% 以上 増加	5% 以上 減少	5% 内 増減	5% 以上 増加	5% 以上 減少	5% 内 増減	5% 以上 増加	5% 以上 減少	5% 内 増減	5% 以上 増加	5% 以上 減少	5% 内 増減	5% 以上 増加
	全	国															
米	全	国	489	42	114	612	213	279	196	206	197	66	273	456	—	41	104
	構成比	茨城	14.5	1.2	3.4	18.1	6.3	8.3	5.8	6.1	5.8	2.0	8.1	13.5	—	1.2	3.1
	茨城	6	—	1	41	16	8	—	6	3	—	—	11	—	—	—	
	構成比	茨城	6.5	—	1.1	44.6	17.4	8.7	—	6.5	3.3	—	—	12.0	—	—	—
野菜	全	国	696	89	230	559	131	578	210	59	439	64	14	160	47	13	83
	構成比	茨城	20.6	2.6	6.8	16.6	3.9	17.1	6.2	1.7	13.0	1.9	0.4	4.7	1.4	0.4	2.5
	茨城	13	1	—	28	3	8	5	6	16	3	2	6	—	—	1	
	構成比	茨城	14.1	1.1	—	30.4	3.3	8.7	5.4	6.5	17.4	3.3	2.2	6.5	—	—	1.1
畜産	全	国	468	35	123	652	123	437	413	113	659	38	13	155	32	14	36
	構成比	茨城	13.9	1.0	3.6	19.3	3.6	14.4	12.2	3.3	19.5	1.1	0.4	4.6	0.9	0.4	1.1
	茨城	3	—	—	16	6	14	6	4	40	—	—	3	—	—	—	
	構成比	茨城	3.3	—	—	17.4	6.5	15.2	6.5	4.3	43.5	—	—	3.3	—	—	—
果樹	全	国	899	125	918	117	35	290	146	42	380	31	18	60	8	18	38
	構成比	茨城	26.6	3.7	27.2	3.5	1.0	8.6	4.3	1.2	11.3	0.9	0.5	1.8	0.2	0.5	1.1
	茨城	34	6	36	1	1	7	2	—	4	—	—	—	—	—	—	
	構成比	茨城	37.0	6.5	39.1	1.1	1.1	7.6	2.2	—	4.3	—	—	—	—	—	—

(注) 構成比は当該地域の総市町村数で特化階層該当市町村を割つもの、したがって該当なしの市町村がある場合は、横計が100%にならない。

自性を持つていなければならぬ。つまり地方自治体として地域住民の福利厚生を増大し、格差を是正するためには、国民経済的な観点にたつた上位計画と斉合性をもつた地域の計画を考えると同時に、地域の社会経済の特徴を十分に生かした独自の計画を樹立するという両者の調和が不可欠とされるのである。

このためには、国、都道府県段階の統計はもとより、さらに市町村段階の統計が整備されていなければ、相ついで成立する地域関連政策に対応した計画策定作業を行なうことはできない。

もともと農林統計の使命は、農林政策を樹立するために農林業の地位役割をあらかにするための資料、農林行政を公平かつ効率的に行なうための実施基準、さらには農林行政の浸透と効果判定資料を提供するものであるが、最近相ついで制定された地域農業の総合的整備開発関連施策の実施にともなつて、地域統計の充実が急務となつてきている。いうまでもなく近時の経済成長の過程

において、農業、農村の地域的等質性は急速に失われ、その地域構造は多様な分化をとげ、農業空間の生産システムは「農業、生活、工業」という他産業との競合を含む多元的な生産システムへと急速に変貌しつつある。

このような状況のなかで、いまや「地域」という概念は、国家行政上重要な多くの局面を考える場合の共通の基盤、「具体的」な行政概念として、行政の各段階でより強く、より現実に即して意識されるに至つている。とくに農林行政は困難な諸問題を多く抱え、しかも総合農政を具体的スケジューリングによつて、地方末端市町村まできめ細かく推進浸透させるためには、前述したように、国が掲げた行政目標との斉合、調和をはかると同時に、これと併行して地域独自の行政目的に即して行政を推進する必要がある。そのためには、行政目的別の行政対象、行政客体に密着した各種の地域統計が必要であることはいままでもない。(つづく)

) 統計 ニ ュ ー ス (

◇ 2 月 の 主 な 行 事 ◇

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| ○ 1日 農業基本調査実施日 | ○ 17~18日 教育統計調査関係プロ会議 |
| ○ 4~5日 個人企業経済調査関係プロ会議 | ○ 22~23日 労働力調査関係プロ会議 |
| ○ 14~15日 関係プロ統計主管課長会議 | ○ 22~24日 統計実務講習会 |
| ○ 15~16日 関係プロ県民所得事務研究会 | ○ 29日 消費者動向予測調査日 |
| ○ 17~18日 商業統計調査関係プロ会議 | |

■ 統計実務講習会の開催 ■

県および県統計協会の共催による昭和46年度統計実務講習会は、2月22日(火)~24日(木)の3日間、十王町の国民宿舎「鶴の岬」で、県および市町村統計職員を対象に開催される。講習科目はつぎのとおりである。

- 1 利用されやすい統計表の作り方
- 2 統計調査と産業分類
- 3 統計業務を円滑に推進するためには
- 4 統計調査の結果の見方、利用の仕方